

科学技術コミュニケーション推進事業ネットワーク形成型
平成 26 年度採択企画
最終ヒアリング結果報告書

1. 企画名 科学リテラシーに資する複眼思考と知と感性のネットワーク

2. 提案機関 国立大学法人大阪大学 CO デザインセンター

3. 企画の概要

東日本大震災および原発事故をめぐる諸課題により、科学技術に係わる専門家、もしくは科学的営みへの不信がクローズアップされている。その信頼を取り戻し、社会生活に関わる科学技術問題の解決には、異なる意見や関心を持つ多様な人同士が対話し、その結果が共有される「場」の定着が不可欠である。本提案では、科学技術に止まらず、哲学・アート・医療や看護などの多分野における「対話の場」として大学と企業とNPOが運営するコミュニティースペース「アートエリアB1」や、独自の地域性を持つ中之島の各所と連携し、社会的課題に関するテーマ群に基づく企画により、科学技術リテラシーに資する複眼思考と知と感性のネットワークを構築する。

4. 最終ヒアリング結果総合所見

計画は概ね達成され、いくつかの課題を克服することによりネットワークの定着・継続・発展が期待できる。

アートエリアB1がハブとなりコミュニティやネットワークが形成され、それが新たな連携等につながる可能性を見出した点や、産業界も巻き込み多くの企画を形にして多様な人たちが対話する場を作ったことは評価できる。しかしながら、それらの活動やネットワークがどの程度「科学リテラシーに資する」のか「科学技術への信頼回復」につながるのかが不明確であった。今後、コミュニケーションデザインが、阪大の学部間に横串を入れるだけでなく社会に伝わりにくい高度な学問や先進的科学技術をインタープリートできるように試みてほしい。大学機関と文化施設や企業・行政の産官学連携の協働企画の実現（中之島アゴラ構想への発展）に期待する。

以上